

公益財団法人 日本少年野球連盟埼玉県支部 加盟
通称:ボーイズリーグ (中学部)



草加ボーイズ/愛称:全草加

団 事 務 所 : 埼玉県草加市中根 3 - 2 2 - 1 8

専 用 球 場 : 茨城県坂東市桐木 5 6 3 - 1 (正明院、564番地付近)

URL <https://sokaboys.jp>

■沿革



- 昭和47年4月(1972年) 日本少年野球連盟東京支部に草加栄ドラゴンズとして加盟登録。
- 昭和48年 (1973年) 第3回春季全国大会初出場でベスト4に進出。
第4回全国選手権大会初出場。
- 昭和49年 (1974年) 第4回春季全国大会出場(2回目)、第5回選手権大会出場(2回目)。
- 昭和50年 (1975年) 第5回春季全国大会(3回目)・ベスト4、第6回選手権大会出場(3回目)。
連盟で金属バット使用が認可される。
- 昭和51年 (1976年) 東京支部が分割され、埼玉県支部(中学の部1チーム、小学の部2チーム)となる。
[草加栄ドラゴンズ・流山クラブ・川口ビッグベアーズ・川越クラブ・八潮セネターズ]
本年度より金具のスパイク使用中止となる。
第6回春季全国大会(4回目)・準優勝 [草加栄ドラゴンズ]。
第1回関東大会開催される。
- 昭和52年 (1977年) 3月、ボーイズニュース創刊される。
第7回春季全国大会出場(5回目)、第8回選手権大会(4回目)・ベスト4。
第2回関東大会初出場。
- 昭和53年 (1978年) 草加栄ドラゴンズより草加ユニオンズに名称変更し、完全なクラブチームとして移行。
第8回春季全国大会出場(6回目)、第9回選手権大会出場(5回目)。
第3回関東大会出場(2回目)。
- 昭和54年 (1979年) 今年度より、より充実したものをということで**全草加(オールソウカ)**と改称。
第4回関東大会出場(3回目)。
- 昭和55年 (1980年) 3月、選手手帳の携帯を義務づけされる。
代表に小熊和雄氏(埼玉県支部顧問)就任。
第11回選手権大会出場(6回目)、第5回関東大会出場(4回目)。
- 昭和56年 (1981年) 連盟の規定で早朝と日没の練習が厳禁となる。
第6回関東大会出場(5回目)。
- 昭和57年 (1982年) **第13回選手権大会(7回目)・ベスト4、第7回関東大会(6回目)・準優勝。**
- 昭和58年 (1983年) **第13回春季全国大会(7回目)・準優勝**、第14回選手権大会出場(8回目)。
第8回関東大会出場(6回目)。
- 昭和59年 (1984年) 九州において世界大会開催、全関東選抜メンバーとして4名出場。
第9回関東大会出場(7回目)。
第1期生の青島健太氏がヤクルトスワローズに入団される。
[草加栄中、春日部高、慶応大、東芝]
- 昭和60年 (1985年) 11月に草加文化会館に於いて埼玉県支部10周年記念式典開催される。
第16回選手権大会出場(9回目)、**第10回関東大会(10回目)・準優勝。**
- 昭和61年 (1986年) 監督に小林千春氏が就任。
大阪で世界大会開催、全関東選抜メンバー堀田寿也・中村和雄紀君出場。
第16回春季全国大会出場(8回目)、第17回選手権大会出場(10回目)。
第11回関東大会出場(11回目)。



昭和62年 (1987年)	中学生の部、投手の連投禁止・地区大会開催規定大幅改正される。 第12回関東大会出場(12回目)。
昭和63年 (1988年)	第19回選手権大会(11回目)・ベスト8、 第13回関東大会(13回目)・準優勝。
平成元年 (1989年)	名古屋で世界大会開催、全関東選抜メンバーとして。 〔榎淵聡(元ヤクルトスワローズ) 第19回春季全国大会出場(9回目)。
平成2年 (1990年)	小熊和雄代表に代わって小山隆男氏が就任。 東京ドームで日本ベースボールサミット開催され全草加3年生9人限定で参加。 第20回春季全国大会(10回目)・準優勝、第15回関東大会(14回目)・準優勝。 10月、榎康弘君がロッテオリオンズ(現在、千葉ロッテマリーンズ)に ドラフト6位で指名される。
平成3年 (1991年)	第21回春季全国大会出場(11回目)、第22回選手権大会出場(12回目)。 第16回関東大会(15回目)・準優勝、第1回全国選抜岐阜大会初出場・ベスト4。
平成4年 (1992年)	岐阜少年レッズ(現:岐阜青山ボーイズ)を全草加に招き交流試合が行われる。 第22回春季全国大会出場(12回目)、第23回選手権大会出場(13回目)。 第17回関東大会(16回目)・優勝。
平成5年 (1993年)	全草加後援会が発足し、三位一体の体制で充実を計る。 第二グラウンドを借用設置(現:越谷レイクタウン)。 第23回春季全国大会出場(13回目)、第24回選手権大会(14回目)・ベスト8。 第18回関東大会出場(17回目)、 第3回全国選抜岐阜大会・優勝。
平成6年 (1994年)	11月に越谷市民球場で初めてのOB戦が行われる。 第24回春季全国大会出場(14回目)、第25回選手権大会出場(15回目)。 第19回関東大会出場(18回目)、 第4回全国選抜岐阜大会・優勝。
平成7年 (1995年)	野球セミナー開催、春日部共栄高校野球部監督本多利治氏をお招きして、 講演会開催される。 世界選手権大会では小林監督が関東選抜の指揮を執り準優勝に導いた。 小林千春監督が退任し、桑原敏雄コーチが新監督として就任。 第25回春季全国大会(15回目)・ベスト4、第26回選手権大会出場(16回目)。 第20回関東大会(19回目)・準優勝、第5回全国選抜岐阜大会・優勝。
平成8年 (1996年)	専用グラウンドが「東埼玉道路」計画の為、柿木町中川河川敷に移転。 3月に創立20周年記念式典行われる(於:越谷市・ギャザホール)。 第3回‘96ジャイアンツカップ大会初出場、第21回関東大会出場(20回目)。
平成9年 (1997年)	世界選手権大会に薄根良太君が出場。 第27回春季全国大会(16回目)・ベスト8、第28回選手権大会出場(17回目)。 第22回関東大会(21回目)・優勝、第4回‘97ジャイアンツカップ大会出場。
平成10年 (1998年)	第23回関東大会出場(22回目)。 桑原敏雄監督が退任し、鈴木浩文コーチが監督に就任。 10月、榎淵聡君がヤクルトスワローズにドラフト3位で指名される。
平成11年 (1999年)	第24回関東大会出場(23回目)。 第9回全国選抜岐阜大会・優勝、第6回‘99ジャイアンツカップ大会出場。



平成12年 (2000年)	ボーイズリーグ加盟を認知させるために、チーム名を全草加より全草加ボーイズと改称。 第31回選手権大会出場(18回目)、第10回全国選抜岐阜大会・ベスト4
平成13年 (2001年)	小山隆男代表が埼玉県支部副支部長就任に伴い、今村親房副代表が代表に就任。 第4回関東ボーイズリーグ大会・優勝。 第26回関東大会出場(24回目)、第9回‘2001ジャイアンツカップ大会出場。
平成14年 (2002年)	1月、支部増設に伴い、全国36支部に。
平成15年 (2003年)	自動車排気ガス規制の為、団専用マイクロバス(29名乗り)購入する。 第34回選手権大会出場(19回目)。
平成16年 (2004年)	第35回選手権大会出場(20回目)、第29回関東大会出場(25回目)。 世界選手権大会に押田君が出場。 6月、連盟歌「白球にかける」誕生。
平成17年 (2005年)	越谷レイクタウン構想の為、第二専用グラウンド撤去。 8月強風で倒壊したベンチを強固なものへ改良設置。 第30回関東大会出場(26回目)。 埼玉県支部創立30周年大会および記念式典開催。
平成18年 (2006年)	10月29日より吉川順一副代表の退任に伴い、安部吉洋氏が副代表に就任。 第1回から第16回まで連続して岐阜大会参加し、過去4回優勝。 10月1日より公式試合球が低反発ボールに変更となる。
平成19年 (2007年)	第37回春季全国大会出場(17回目)。 今年度よりスパイクがポイント式より金具式に変更となる。
平成20年 (2008年)	2月11日・今村親房代表辞任に伴い、安部吉洋副代表が代表に就任。 リトルシニアリーグ等他リーグとの交流試合が承認される。
平成21年 (2009年)	5月・現中川のグラウンド一部用地売却により、ハウス等移動される。 9月22日・越谷Kクラブボーイズ(現:越谷ボーイズ)と第1回目の親睦試合実施される。
平成22年 (2010年)	第35回関東大会出場(27回目)。
平成23年 (2011年)	第41回春季全国大会出場(18回目)。 [3・11東日本大震災]の為、大会中止。 第14回関東ボーイズリーグ大会・優勝。 第5回全日本中学野球選手権大会出場(ジャイアンツカップ)。 [シニアリーグ全国優勝の取手シニアと対戦し、5対4で勝利を収める。]
平成24年 (2012年)	4月より、現グラウンドが国土交通省の買取により、草加市管理管轄となり、草加シニアチームが第一日曜日・第三土曜日にグラウンド使用となる。 第24回東日本選抜大会・出場。
平成25年 (2013年)	9月、第16回日高ロータリー杯新人戦、優勝。 本年より、ボーイズリーグが公益財団法人となり、サンリーグ(北海道) 14チームがボーイズリーグに加盟となる。 公益財団法人となつたことに伴い、チーム名の「全」「クラブ」「カタカナ」等を削除し、「地域名+ボーイズ」名と改称することとなり、4月1日付で当チームは、草加ボーイズと改称。

平成25年 (2013年)	(1972年) 草加栄ドラゴンズ (1978年) 草加ユニオンズ (1979年) 全草加 (2000年) 全草加ボーイズ 愛称:全草加(オールソウカ) (2013年) 草加ボーイズ 愛称:全草加(オールソウカ) 3月に、7月1日付けで新グラウンド用地(茨城県坂東市)の契約書取り交わす。 11月30日付けを以て、中川河川敷築堤工事のため撤去となり、草加・柿木 グラウンドより、茨城県坂東市弓田へ移る。 第25回東日本選抜大会・出場。
平成26年 (2014年)	2月、第3回西武ライオンズカップ大会出場。(初出場) 2月、茨城県坂東市弓田(坂東球場)にて練習等を開始。 (両翼93.4m・中堅120m) 第45回選手権大会出場(10年ぶり21回目) 7月27日(日)、坂東球場落成記念式典が行われる。 8月、2014世界少年野球大会(アメリカ・ハワイ)監督に鈴木浩文氏になる。 世界選手権大会に永井敦士君が出場。 9月新チームより、ユニフォームのロゴを改正(AllsokaよりSokaに)  ↓ 
平成27年 (2015年)	第45回春季全国大会出場(4年ぶり19回目)。 第40回関東大会出場(28回目)ベスト4。
平成28年 (2016年)	2月、埼玉県支部創立40周年記念式典(於:大宮パレスホテル)行われる。 第47回選手権大会出場(2年ぶり22回目) 8月、 第5回西武ライオンズカップ大会出場。(2年ぶり2回目) 9月、 第19回日高ロータリー杯新人戦、優勝。 10月、 第28回東日本選抜大会・出場、初優勝。 10月、菅原真治氏が運営兼副代表に就任。 10月、宮崎英次氏がコーチ就任。
平成29年 (2017年)	8月、2017カルリブケン世界少年野球大会(アメリカ)監督に鈴木浩文氏になる。 8月、 第42回関東大会出場(2年ぶり29回目)、ベスト4。 10月、 第29回東日本選抜大会・連続出場。 10月、永井敦士君、広島東洋カープにドラフト4位で指名される。
平成30年 (2018年)	4月、元監督の小林千春氏(65歳)が他界。 4月、平城留威氏、渡辺紀之氏がコーチ就任。 7月、坂東市とのグラウンド用の土地賃貸借契約が行われる。 10月、加藤広司氏が副代表に就任。 10月、箱崎雄三氏がコーチ兼トレーナー就任。
平成31年 (2019年)	4月30日、天皇陛下退位される。
令和元年 (2019年)	5月1日、皇太子による天皇即位により、新しい元号となる。 6月、坂東市とグラウンド賃貸借契約が本年12月まで延長契約が行われる。 10月から12月中旬にかけて、移転に取り掛かる。 11月から新グラウンド使用許可契約を取り交わす。 12月より、坂東市弓田と桐木グラウンドを併用して練習開始。

-
- 令和2年 (2020年) 1月から本格的に坂東市桐木563-1のグラウンド使用。
(左翼97.7m、右翼90m、中堅118m)
3月2日(月)より、新型コロナウイルス感染により、全国の小・中・高校が春休み中までは臨時休校となり、伴ってボーイズリーグも第50回全国大会が中止、第11回ベースマン杯大会中止、第23回関東ボーイズリーグ大会開会式(4月2日)から試合も中止、対外試合禁止、代表・監督が招集する練習禁止との通達がありました。
5月、初代の代表川村富男氏が逝去される。
3月中旬より練習等禁止だったが、6月6日土曜日より、練習再開される。
8月8日より全国選手権大会開催予定。高校野球は中止。
6月6日第一土曜日、練習再開される。
- 令和3年 (2021年) 新型コロナウイルス感染も継続していますが、対策を講じて練習、各種大会実施される。
8月、第46回関東大会出場(4年ぶり30回目)出場権獲得も8月13~15日の天候が雨天続きの為、大会日程の調整がつかず、大会中止となる。
10月、第33回東日本選抜大会・4年ぶり出場。
12月、屋根付きの砂置き場を設置(3m×4m)。
- 令和4年 (2022年) 設立50周年、その先へ 50th Anniversary in 2022
1972年～ 50周年 ～2022年
7月10日、参議院選挙にて、第1期生の**青島健太氏**が日本維新の会より比例区で当選されました。
-

■歴代代表

初代 川村富男(昭和47年)
2代 真田孝一(昭和54年)
3代 小熊和雄(昭和56年)
4代 小山隆男(平成2年)
5代 今村親房(平成13年)
6代 安部吉洋(平成20年)

※昭和54年(1979)全草加と改称されてからは、
代表は小熊氏、監督は飯森氏が初代となります。

■歴代監督

初代 平賀八郎(昭和47年)
2代 後藤力
3代 中野鉄之助
4代 平賀八郎
5代 相沢俊二
6代 飯森邦男(昭和54年)
7代 八木陽介(昭和56年)
8代 梅田哲司(昭和60年)
9代 小林千春(昭和61年)
10代 桑原敏雄(平成8年)
11代 鈴木浩文(平成10年)

■副代表

加藤広司

■会計監査役

鹿毛昭宏

■運営部長兼コーチ

持木寿文

■マネージャー

木村勇介

■コーチ

宮崎英次

平城留威

相澤哲也

渡邊紀之

高橋悦朗

箱崎雄三

■後援会

会長 深野和利

副会長 杉浦成己

◆OBのプロ野球選手

青島健太 元東京ヤクルトスワローズ

樫淵 聡 元東京ヤクルトスワローズ

榎 康弘 元千葉ロッテマリーンズ

永井敦士 元広島東洋カープ
